

チャレンジ講座（理系第6回）を実施しました

12月19日（水）に第6回理系チャレンジ講座が、本学福祉健康科学部の兒玉雅明先生を講師に迎え、「研究者は世の中の常識を疑問に変えよう！ー胃の病気とピロリ菌の発見ー」というテーマで行われました。

遠隔配信された三重総合、中津南、高田、大分西、国東、安心院、竹田、大分鶴崎、臼杵、大分雄城台、別府翔青、日田及び来学の大分東明の計13校141名が受講しました。

テーマである「世の中の常識を疑問にかえる」とはどういうことなのか、先生は“ピロリ菌”を題材に分かりやすく説明してくださいました。



最近になって胃十二指腸潰瘍・胃癌などの原因として注目されている“ピロリ菌”ですが、その存在は19世紀にはすでに知られていたといいます。しかし、pH2の強酸環境である胃の中に細菌など存在するはずがないという「常識」によって“ピロリ菌”の存在は否定され続けてきました。この「常識」に疑問をもったのが後にノーベル医学・生理学賞を受賞したウォーレン氏とマーシャル氏だったというお話でした。

皆が言っている「常識」が本当であるのかと疑い続けた2人がいたからこそ、“ピロリ菌”の存在が今現在は世の中の「常識」になっています。このような例は決してまれではありません。講義のまとめとして、兒玉先生は理系にとって必要なこととして、①好奇心・疑問を持つこと②観察すること③記録することの3つを挙げられました。世の中の常識に対して常に疑問を持ち、それを調べ、記録するという地道な作業こそが大きな発見へとつながることを教えていただきました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（100%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣

に取り組んでいた」（100%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（100%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（80%）、「映像はよく見えた」（79%）という結果が出ました。接続機器の状況が良くなくカメラ画像に乱れが生じ皆さんにご迷惑をお掛けしました。受講生の主な感想として、「ピロリ菌のことなど新しい知識が得られて良かった」「説明がわかりやすかった」「地道な努力が大切だとわかった」といったものが寄せられました。

